

地域包括支援センター・行政との連携

地域包括支援センターとの連携

同じ医師会が運営する地域包括支援センターつくしとの連携を、昨年度より一歩推し進め、具体的な共同での業務・事業を実施した。

- ◆地域ケア推進担当者会議への参加（毎月第1水曜日）
- ◆地域ケアネットワーク会議（6回）
- ◆介護者のつどい（3回）
- ◆町内会ごとの集会等（6回）
- ◆山形県地域ケア会議等広域支援員等運営会議



包括と一緒に寸劇

地域で開催される会へ積極的に参加し、ほたるの周知、地域課題に対する医療的助言、参加者からの相談に対応。



協業体制を地道に継続していくことが、信頼関係を醸成し、地域包括支援センターと拠点のより良い関係作りに繋がる。



地域包括ケアシステムの構築における医療側からの推進を、医師会が運営するほたるが担う。

行政との連携

行政との連携を継続するだけでなく、具体的な取り組みを実施。

- ◆定期的なミーティング（毎月第1月曜日）
- ◆医療と介護の連携推進担当者会議（研修会企画会議）



行政と連携して作成した「連携シート」（医師への介護に関するアンケート調査）のケアマネジャーの活用状況を行政が調査。結果を受けて今後の展開を検討していく。



利用状況	人数
いつも利用している	9名
ときどき利用している	55名
全く利用していない	68名

理由

- 【利用されていない理由】
- ◆近隣医師との連携はとれているので必要性が低い。
 - ◆冊子があることを知らない。



鶴岡市主催の「福祉体育祭」で、地域包括支援センターの利用方法を寸劇で演じたり、展示にて訪問診療や介護サービス、ほたるの周知活動を行った。（参加者780名）



行政・地域包括支援センターとの定期的なミーティングや、事業での協力を通して**信頼関係を醸成**し、地域包括ケアシステムの構築を推進する。

今年度の新たな取り組み

介護施設等への訪問調査

《目的》

- ◆在宅医療における地域の課題および多職種連携の課題等の抽出を行う
- ◆地域資源の現状を把握し、相談業務等に活かしていく。

《対象施設数：59》

◆主な調査内容

- ①施設での受け入れ状況
(CVポート、経腸栄養、喀痰吸引、がん、透析、精神障がい、看取り、感染症、ストーマ)
- ②事業所で抱えている課題(人材不足など)
- ③職種間連携
- ④施設間連携
- ⑤今後の課題
(看護職、介護職の業務拡大を検討すべきケア行為について)

◆調査結果を集積し、地域における在宅医療の課題を明確にする→次の活動に繋げていく

◆介護現場における看護と介護の連携に関するアンケート調査を実施予定

対象：介護老人福祉施設・介護老人保健施設に勤務する看護職と介護職



介護施設に勤務する看護師を対象とした意見交換会を開催予定

薬剤師会との連携

昨年度より継続している薬剤師会との連携を継続するだけでなく、具体的な取り組みを実施。

◆定期的なミーティング（毎月第3月曜日）

◆課題

- ①訪問看護師やケアマネジャー等が薬局に相談できるルートが確立されていない
- ②訪問服薬指導が活用されていない。

- ◆相談窓口の設置
- ◆お薬相談依頼書の作成
- ◆在宅薬剤（居宅療養）管理指導依頼書作成
- ◆訪問服薬指導に関する説明会を開催予定



訪問服薬指導、薬剤師会の相談窓口の周知に努める。



今年度の新たな取り組み

平成25年度 鶴岡市地域ケア会議（仮称）試行

《目的》

地域ケア会議の本格的実施にあたり、高齢者の「自立支援」、「在宅の限界点を高める」、「安心して暮らし続けられる仕組みづくり」等の実現をめざすため効果的な展開の在り方を検討する。

- ◆ 模擬地域ケア会議の開催に向け、開業医、訪問リハビリスタッフの派遣
- ◆ オブザーバーとして医師会会長、ほたるスタッフが出席



- ◆ キーパーソン不在の独居高齢者の支援について事例検討
- ◆ 鶴岡方式の地域ケア会議（仮称）の展開について、意見交換

平成25年度 三川町介護支援専門員連絡会議

- ◆ ほたるの活動報告と周知、歯科医師会・薬剤師会との取り組みの紹介と協力依頼
- ◆ 地域ケア会議についての意見交換



地域包括ケアシステムの構築に向け、オブザーバー的立場で必要な支援をしていく。

地域包括支援センターつくし

地域ケア会議（個別ケース会議）

つくしが担当する地区の独居女性について、関係者が一堂に会し、現在の課題や今後の方針、役割分担について話し合う。

- ◆ 参加者
 - 公共機関
警察署・保健所・市役所・医療機関の各担当者
 - 町内
町内会会長、民生児童委員
 - 介護系
ケアマネ（サービス担当者兼）
 - 地域包括支援センターつくしスタッフ
 - オブザーバー
社会福祉協議会 担当者、ほたる



- ◆ 各担当者からの現状と対応を伺うことで、情報の共有ができ、課題が明らかにされた。
- ◆ 課題が明らかにされたことによって、今後の方針や役割分担などについて、話を詰めることが出来た。
- ◆ この「チーム」の要を決定し、今後各自何をどこに報告したらよいのか明確になった。



市町村職員の皆様へ

- 地域包括ケアシステムの構築には、市町村の協力は不可欠
 - 連携には「顔の見える関係づくり」が不可欠
 - 地域で開催されている医療・介護に関わる研修会や勉強会等に積極的に参加し、何が行われているか知ってほしい
 - 市町村だからできることもある。しかし、市町村だからできないこともある。これを周囲に知らせる努力をしてほしい
 - 同じように周囲も市町村を知る必要がある
- ～地域みんなで連携の輪を作ろう～



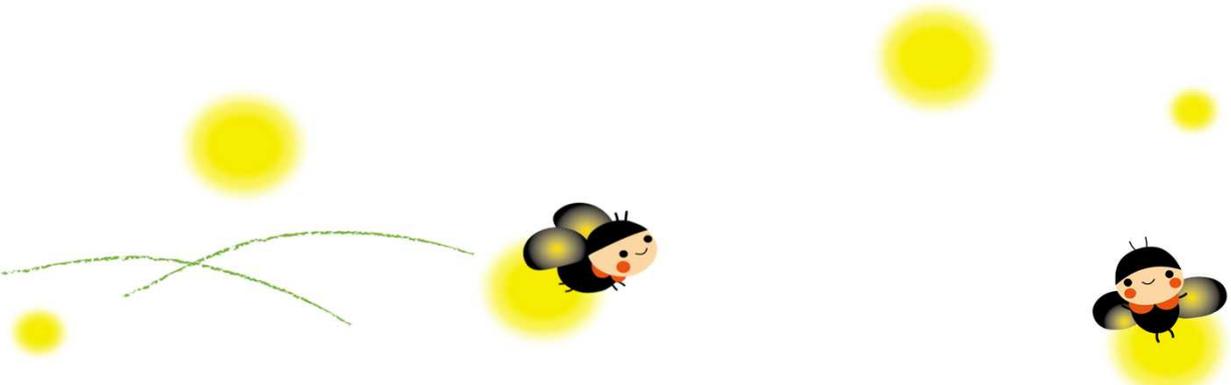
連携戦隊☆ホタレンジャー

鶴岡地区医師会
会長
三原 一郎

地域医療連携室ほたる
室長
中村 秀幸

鶴岡地区医師会
副会長
土田 兼史





ご清聴ありがとうございました



地域医療連携室 係長

遠藤 貴恵

女子力向上委員会部長♥



看護師

梅木 美枝

心を癒すちりめん細工に
はまっています🎵



相談員

渡邊 田鶴子

口癖は、
『今年こそダイエット🦋』



事務

小野寺 亜衣

巨人#6 坂本勇人が
大好きです♥

